



INATSUGI ORTHOPAEDIC HOSPITAL

南海トラフ巨大地震に備えて ～食糧・水・トイレの確保とスタッフ間の連携～



医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院
齋藤 廣美

凌雲会グループ

- 稲次整形外科病院
 - 老人保健施設 昴
 - ケアハウスサンガーデン凌雲
 - サービス付き高齢者専用住宅 メディション
 - クリニック稲次
 - 福祉ホームリズム、就労支援ハーモニー
 - グループホーム親の家
 - 通所系サービス
 - 訪問系サービス
-
- 入院患者、施設入所者合わせて約250余名
 - 職員数450余名





老人保健施設 昂



生活支援ハウス 藍
デイサービスセンター 藍



サービス付き高齢者専用住宅
メディシオン 凌雲



グループホーム 親の家



福祉ホーム リズム
就労支援センター ハーモニー



ケアハウスサンガーデン 凌雲

藍住町への津波被害予想

- 震度6強
- 県が出している津波マップ°
浸水範囲: 約2km²
- 液状化現象
藍住町ほぼ全域に渡る



防災への意識

2004年、新潟中越大地震(震度7)が発生した。

被災地の小千谷病院では施設の損壊と設備・器械の破損、ライフラインの断絶を経験した。

医療・介護スタッフも被災者である中で、スタッフの取った行動について、当時の院長として指揮を取られた横森先生の講演を拝聴し、当院での防災に対して危機意識を持った。

2006年に、災害対策研修として横森先生を招き講演をしていただいた。

当院の防災に対する取り組みを報告する。



防災用品の準備



ヘルメット
自転車
長靴
雨カッパ 等

防災用品の準備



ランタン

停電に備えて

- ① ランタンを、患者さんの床頭台内に1個ずつ 配備
- ② 電子カルテサーバー停止時は、紙カルテ、指示書等、紙媒体へ切り替える
- ③ 酸素供給は停電時も可能、携帯酸素ボンベ準備
- ④ 吸引は発電機で電源確保する

☆発電機の燃料はガソリン

グループ内公用車約40台あり、車のガソリンが半量になる前に給油している。



夜間停電 訓練内容 1

病院が2～3時間停電することになり、夜間停電訓練を行った。

- ① 3時スタッフ集合
- ② 暗闇の中、発電機操作する
- ③ Nsコール使用できないため、廊下に等間隔でスタッフ配置
- ④ 師長は不測の事態に備えてスタッフST内待機する



夜間停電 訓練内容 2

- ① 発電機を作動させる
- ② ランタンを病室、トイレへ準備し、その灯りでトイレ誘導、オムツ交換ができた
- ③ 今回は、約2時間の訓練時間内に吸引の施行はなかったが、発電機使用で対応できる

停電時、自家発電へ切り替わり、約1時間使用できる。今回は、そのことが確認できた。



排泄

- ◆環境の変化等でオムツ使用増加が予想される
 - ・病院は2階、老人保健施設は3階に保管している
 - ・業者の倉庫に約3日分の在庫を確保している
- ◆断水時の手指衛生方法、トイレ使用方法について
掲示し、患者さんに協力を得る
- ◆便器にビニール袋をかけ凝固剤で固形化する
- ◆職員用簡易トイレを設置する



簡易トイレ設置訓練

【手順】

- ① 浄化槽の鉄板を加工した鉄板へ交換する
- ② その上に専用イスを設置
- ③ 周りをテントで覆う



浄化槽の蓋を開ける



加工した鉄板を置く

加工した鉄板



専用イスの設置



周りをテントで囲む



座ると...



訓練後、意見・感想

- ・汚物入れが必要
 - ・トイレ便座用除菌シートを各自持参する
 - ・臭気が気になるので、防臭スプレーや蓋の設置はどうか
 - ・トイレットペーパー、ウェットティッシュの用意
 - ・トイレ使用中などのプラカードを吊るしておく
 - ・浄化槽への筒部分が排泄物で汚染した場合に、新聞紙等を用意しておく
 - ・使用すると臭気があり、他のテント(炊き出しや救護等)の設置場所を検討する必要あり
 - ・設置箇所の交通量が多いため、別の場所で設営可能か確認要する
 - ・浄化槽の蓋が重くて持ち上げるのに苦労した
 - ・仮設トイレは、思ったより広くて使用しやすいように思えた
-
- ・災害時には本日の経験者がリーダーになる事が出来る



炊き出し訓練

【役割を決めて実施】

- ① テント設営する
- ② 調理器具を運び準備する
- ③ 発電機使用し井戸水を汲み上げ、運搬する
- ④ 汲み上げた水をガスコンロで沸かし、 α 米の炊き出し、味噌汁を調理する

感想

- ・ 袋に水を入れて空気を抜きビニールを輪ゴムで括る時、慣れないと時間がかかる。
- ・ 鍋に袋に詰めた α 米を入れて炊く時、詰め込むと出来上がりに時間がかかる。



α 米と水を袋へ入れ輪ゴム
で括っている



お湯に入れる前



赤い器械が発電機

吸い上げた井戸水をポリタンクへ入れて運搬





テント内で味噌汁を調理

職員、学生の食糧・水の確保

- 職員は、ロッカーに3日分の食糧・水・その他自分が必要な物品を準備している



カイロ・携帯充電器 等

- 看護学生の水と食糧を預かり保管している



職員全員に、防災用品配布



地域との連携

- 当グループ介護保険利用者さんで独居の方に対し、居宅介護事業所職員が安否確認をする
- 安否が確認できない場合は、訪問する

11月13日現在

- ・独居 19名
- ・在宅酸素療法を受けている方 6名
- ・吸引器使用している方 4名



スタッフの
安否は？

地震発生



交通事情が
分からない！

安否確認訓練

すだちくん
メール

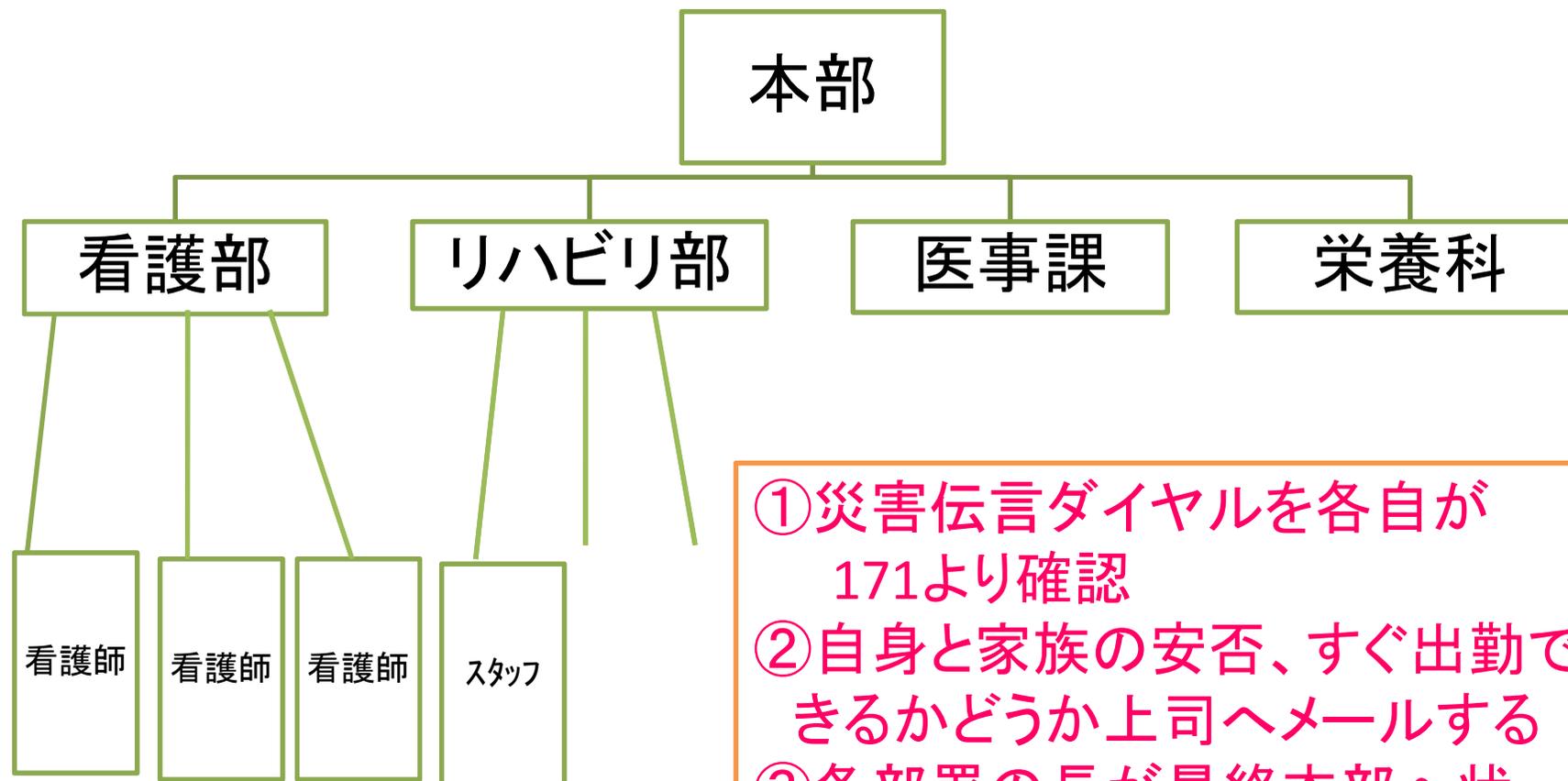
- ・ 月1回情報伝達訓練
- ・ 全ての職員が登録

平時より訓練することが大事

災害伝言
ダイアル

- ・ 毎月1日情報伝達訓練

災害伝言ダイヤル 組織図



- ①災害伝言ダイヤルを各自が171より確認
- ②自身と家族の安否、すぐ出勤できるかどうか上司へメールする
- ③各部署の長が最終本部へ状況報告する

まとめ

- 災害時、スタッフの安否確認、人的資源の確保が必要
- 平時より定期的に訓練を実施する
- 与えられた環境下でチームの目的達成のため、効果的な方法を見出し、それを実行することが重要



ご清聴ありがとうございました

